

H25. 3. 23

石木ダム建設絶対反対同盟 松本好央

今、川原^{こうぼる}は菜の花でいっぱいです。黄色い帯が山の緑を際立たせ、川辺を彩っています。

「のどかな風景」その言葉にピッタリの光景です。川には石木川にしかいない魚達もいます。そんな川原^{こうぼる}をコンクリートで固めてもよいのでしょうか？！

私が7歳の頃、強制測量が行なわれました。それから今日まで30年以上もの間、このダム問題に悩まされて来ました。ひと時も頭の中からはなたれることもなく、時にはダムの話しが食事のおかずとなることもありました。今は自分も親となり子ども達もまた私達が体験したこのダム問題に悩まれる！それはうんざりなのです。

1982年5月濃紺な服に身をまとったたくさんの機動隊がやって来ました。僕らの土地に測量に！杭を打ちに！やって来たのです。僕らはただただ怖くて怖くて……。でも大人達は杭を打たせまいと必死でこの土地を、僕らを守ろうと立ち向かいました。じいちゃん、ばあちゃんも道路に座り込み、道を開けようとはしませんでした。そんな大人達の姿を見て僕たちも自然と手をつなぎ震える手に力を入れ「帰れ！帰れ！」と力の限り叫び続けました。僕らの土地を守りたい気持ちがそうさせたのかもしれない。

そんな行動が何日も何日も続きました。今でもあの時のさまざまな思いが今の私達の団結力の原点となっているのです。

子ども達は川原^{こうぼる}の自然に育てられ、川原^{こうぼる}の人達に守られ成長して来ました。畑をいじり、川で遊び、虫や川の生き物とたわむれ、捕まえ方も自分達で覚え、命の大切さも、自然を守ることも知っています。今では野菜や米作りも自ら手伝い、自然のありがたさ厳しさも学んでいます。

まさにゆとり教育を行なう格好の場所なのです。

こんな場所が必要だ！と言っている一方でコンクリートで固めようとしているではありませんか！とても矛盾していることだと皆さんは思いませんか？自然は守るべき！！そう思いませんか？

ここ数年で周りの風景が変わってきました。故郷を離れていった人達がいるからです。その土地も最初の1～2年は花も咲いていました。しかし、今はただの空き地になろうとしています。生きたしるし、思い出が消されていくかのように……。

その景色を観ていると私達の土地が同じようになってしまうのは……見たくもなければ考えたくもありません。イメージしてみてください。水の底に沈んだ土地を！思い出を！生きた証を！

自然を壊すのは簡単ですが元に戻すことは困難、不可能なのです。

今ある植物も石垣も雑草であっても一つ一つが何十年もの月日をかけて今その場所に、そ

の形に！その美しさになっているのです。

この風景を見続けていきたい！守っていきたい！その気持ちで川原^{こうばる}13世帯、いや、川原^{こうばる}を守ってくださっている石木川守り隊・清流の会そのた川原^{こうばる}を愛する人達の手によって、川をきれいにし花を植え、自然を守っていることをみなさんにも知って頂きたいのです。皆が自主的にふるさとをきれいにしていることを！子ども達に残していくために！！
後世にのこしていかなければならないと誰もが思っているということを知ってほしいのです。

美しい土地であるからこそ人々が訪れる。夏には水遊びで賑わい、花々の散策に訪れ、ホタルの光にいやしを求める。川のせせらぎを聴いて心に安らぎを与えるために来てくれる。その人達がいる限り守らなければいけない！！

私達の生きている証を守り続けていくのです。

私の娘が大好きなアイドルグループ「嵐」彼らの唄う歌の中に「ふるさと」という歌があります。「歌詞が大好き！とってもいいよね！」と娘は言ってくれます。みなさんは耳にしたことがあると思いますが朗読したいと思います。

～ふるさと～

- 1、 夕暮れが迫る空に 雲の汽車見つけた
なつかしいにおいの町に 帰りたくなる
ひたむきに時を重ね 想いをつむぐ人たち
ひとりひとりの笑顔が いま僕のそばに

巡りあいたいひとがそこにいる やさしさ広げて待っている
山も風も海の色も いちばん素直になれる場所
忘れられない歌がそこにある 手と手をつないで
口ずさむ 山も風も海の色も ここはふるさと

- 2、 ここに集えた奇跡 胸に深く刻む
小さき光が照らす 大いなる夢
明日への扉ひらいて 五つの種を蒔いていたら
見過ごしてきたものさえ いまいとしすぎて

助けあいたい友がここにいる 遠くを見つめて歩き出す
空も星も虹の橋も すべては心の中にある
気づくことで輝く生き方を いつまでも大切にしたい
空も星も虹の橋も 君のふるさと
僕のふるさと ここはふるさと

自分の夢に向かい、川原^{こうばる}を離れていった友のために帰る場所を守っていかなければいけない。帰るところがあるということは、とても幸せなことである。そのほんの少しの幸せを奪わないでほしい！！

皆さんには、生まれ育った場所がありますか？私達の住む川原^{こうばる}は、自然豊かなところ
です。そんな自然豊かなこの場所に石木ダム建設が計画されています。緑あふれる豊かな
自然を守り心豊かな生活を子や孫に残すためにダムが完全中止になるまで反対していきま
す。

川原^{こうばる}の人達の想いがたくさん詰まった歌を紹介します。

～こうばるの歌～

春は黄色の帯のよう 石木川に寄り添って
水辺の菜の花 どこまでも どこまでも
初夏は日暮れて 帰り道 石木川のほとりでは
ふわふわホタルが 飛んでます 飛んでます
ここはこうばる ホタルの里 自然を守る人が住む

秋の棚田は黄金色 石木川に吹く風が
野辺のコスモス揺らします 揺らします
冬は風花舞い落ちる 石木川のふるさとは
気高くそびえる 虚空蔵 虚空蔵
ここはこうばるホタルの里 ふるさと愛する人が住む

最後に！！

皆さん！よかったら一度足を運んで下さい。

僕らの住んでる川原^{こうばる}に

自慢できるものは何もありませんが、川原^{こうばる}がどんな所か見に来て下さい

ここにダムが出来ようとしています。

もしダムができたなら、田んぼも畑も、僕らの家も、そしてホタルもみんなダムの底に沈んでしまいます。

僕のかみさんが、初めて川原^{こうばる}にやって来たとき、ギョツとした顔をしました。

田んぼや畑のあちこちに、石木ダム反対のでっかい看板があったからです。

僕は、その時初めて知りました。こんな看板だらけの景色が普通でないことを。
僕は生まれてず〜っとこの景色の中で育ったのです！！
それが異常だってことに気がつかなかったのです。

僕らはただ生まれて育ったこの土地に住み続けたいのです。
この大好きな自然を僕らの子ども達に残したいだけです。